

京情協 地域情報化委員会 議事録

平成 18 年 7 月 20 日

開催日時：平成 18 年 7 月 18 日（火） 17:00～19:10

開催場所：京都コンピュータ学院京都駅前校内 西新館 4 階会議室

参加者：中川, 藤関, 増田, 馬場, 土井, 古川, 事務局長：和田

配布資料：地域情報化委員会の事業計画と進捗(7月20日理事会報告資料)

試作グループ連絡会議(出席者、目的等に関して)

システムエンジニアリング岡山(SEOの件)

回覧資料：特になし

議事

1. 試作産業創出関連

試作グループ連絡会議(7月14日開催)で取得した情報の報告

)京都試作センター(株)に関する情報

7月19日創立総会

8月1日から営業試行開始

9月12日に記念フォーラムをすることで関連各位へのキックオフとなる。

)参加条件に関する情報(1年後に実施の条件付)

参加企業は出資が必要(優先株 30 万円の取得義務)

会費として 3 万円 / 月・企業

成立案件に対する成功報酬は取扱額の 15% (顧客側、試作側とで折半)

* 試作グループ単位ではなくグループへ参加企業単位に要求されている。

* 成功報酬に関しては 1 年後でなく 8 月から実施されるようであるが料率に関しては協議で決められる。

)参加者からの質疑

でんき試作ネットから：現状では価格への要望が強い。従って 15% を上乗せする事は競争力を無くすのでないか？ > 価格以外の競争力を付けて戴き安値競争の世界とは無縁になる事が必要である。

京情協：京都試作センター(株)は実質丸投げ会社に近い存在である。顧客側は正式契約先として個別企業を要求するものでないか？ > 京都試作センターが責任をとると言えば問題は無い。

京都せんい試作ネット：最初は京都試作センター経由であるが顧客と関係が出来て顧客が京都試作センターを通す事無に仕事が依頼されればどうするのか？ > 京都府下の企業に金が落ちるのであれば京都試作センターとして問題は無い。

)地域情報化委員会での議論及び方向性

- a)ソフトに関してはあまり受注が見込めないのではないか？
- b)会費の月次で3万円の負担するには相当量の受注量がないと成り立たない。
- c)動き出してでないと予測が付かない。付かず離れずのスタンスで模様眺めが現時点では一番よい選択でないか
- e)京情協としてはグループ活動の前に個別企業が存在し、受け皿がない案件に対して地域情報化委員会の発展グループで対応する構造を要求し続ける。
- f)試作グループの末席参加を要望していく。中川副委員長(古川も参加)を中心に参加していく。

2. システムエンジニアリング岡山(S E O)の件

経緯

-)他府県情報産業団体との連携活動の際、地域情報化委員会から4名(小林、馬場、中川、古川)が岡山に訪問し交流会(岡山県からも施策説明で参加)及び懇親会を企画していただいた。
-)今回、S E O側から国内視察の候補地として京都が俎上に上がっている。(機関決定は8月11日の理事会で)
-)事業推進委員会には京都への視察(11月段階)可能性を報告し、地域情報化委員会で企画・準備を担当するので、京情協の正式な行事としての取り扱いを了承して戴いた。
-)S E Oの藤本専務理事との交渉を馬場社長に継続担当して戴く事を決める。

3. 賀詞交歓会の併催行事：セミナーの講師選定に関して

いろんな意見交換の後に以下を講師と考慮し可能性を当てる。メール等でお互動きを理解し、選定を完了する事で決定する。

招徳酒造 木村紫晃氏(J C F土井社長が調整担当)

トレンドには乗っていない日本酒業界にあって、「米と米麹と水だけでつくる純米酒こそ日本酒本来の姿である」とのこだわりを持ち奮闘されておられます。

オフショア開発の流れや、SE 単価・P G単価のデフレ化の中でIT業界もオリジナリティやこだわりを持ちつづけ努力する事、及び長期的な視点で自社の競争力を考える上で参考になるのではないかと。

塗師師 柳生健智氏(ユニシス藤関会長)

N H KのプロジェクトXでもとりあげられた、焼失した金閣の再建に挑んだ職人達、執念の30年戦争を語っていただきます。再建に携わった仲間が世界

され、今後の金閣寺の保全に関する後継者育成等、IT 業界の 2007 年問題にも繋がる課題も併せてお話を戴きます。

都府立医大 吉川 敏一教授(バンテック馬場社長)

活性酸素等の不安定な分子等の研究(フリーラジカル)が専門分野である。データマイニングの重要性を積極的に研究分野に取り入れられる等、IT ツールの利用法についても深い見識もたれております。IT 分野との繋がりも含めてお話を戴きます。

4. 小林氏の件

・6月のケーケーシー情報システム株主総会において、小林さんは監査役を退任されました。本人の希望で引続き地域情報化委員会(オブザーバー資格)には出席したいとの申し出があります。

・平成 17 年度の他府県情報産業団体の調査及び報告書作成には非常な貢献を戴いております。従って、18 年度の「京情協の有様の検討」には貴重な意見も聞く事が出来ると、地域情報化委員会にオブザーバー参加を認めるとの決定がされました。

以上